

甲府市の事務事業における【2020（R2）年度】温室効果ガス排出状況について

甲府市が行う事務事業に伴って発生する温室効果ガスの排出量を抑制するため、「甲府市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を策定しました。

本計画では、本市の温室効果ガス排出量の状況や、省エネルギーへの取組などを踏まえ、2013（H25）年度を基準年度として2030（R12）年度までに「公共施設」と「公用車」の原単位で年1%ずつ削減（基準年度比15%削減）することを目指しています。

これに基づき、2020（R2）年度の本市事務事業における温室効果ガスの排出状況と、同年度の「公共施設」及び「公用車」に係る排出状況を公表します。

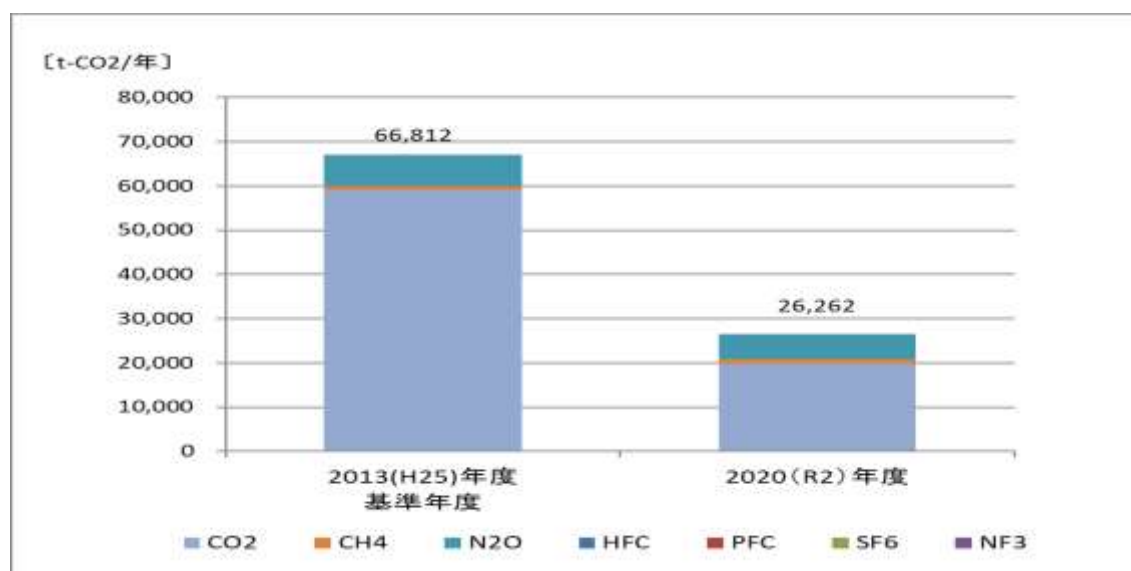
※原単位：単位の製品や額を生産するのに必要な電力・熱（燃料）などエネルギー消費量の総量

■温室効果ガスの排出状況

（1）総排出量及びガス種類別排出量（単位：t-CO2/年）

ガス種類	2013(H25)年度 基準年度		2020(R2)年度	
	排出量	比率	排出量	比率
二酸化炭素(CO2)	59,081	88.4%	19,853	75.6%
メタン(CH4)	923	1.4%	934	3.6%
一酸化二窒素(N2O)	6,803	10.2%	5,472	20.8%
ハイドロフルオロカーボン(HFC)	4	0.006%	4	0.01%
パーフルオロカーボン(PFC)	0	0.0%	0	0.0%
六フッ化硫黄(SF6)	0	0.0%	0	0.0%
三フッ化窒素(NF3)	0	0.0%	0	0.0%
合計	66,812	—	26,262	—
対基準年度比	—	—	△60.7%	—

※四捨五入のため、合計値が合わない場合があります。



※総排出量は、一部事務組合、広域事務組合を除く市庁舎等における事務事業に伴い排出されるCO2等の温室効果ガスの総量であり、2020（R2）は基準年度に比べ60.7%減少しています。

(2) 活動種類別排出量 (単位: t-CO2/年)

	活動種類	2013(H25)年度 基準年度		2020(R2)年度	
		排出量	比率	排出量	比率
エネルギー 起源二酸化 炭素排出量	燃料の燃焼	3,378	5.1%	3,298	12.6%
	他人から供給された電気の使用	21,990	32.9%	16,555	63.0%
非エネルギー 起源二酸化 炭素排出 量	一般廃棄物の焼却	35,251	52.8%	0	0.0%
	産業廃棄物の焼却	3,408	5.1%	3,545	13.5%
	ディーゼル機関における燃料の使用	3	0.004%	2	0.008%
	ガス機関またはガソリン機関におけ る燃料の使用	78	0.117%	76	0.289%
	自動車の走行	10	0.015%	11	0.042%
	下水又はし尿の処理	2,691	4.0%	2,735	10.4%
	麻酔剤(笑気ガス)の使用	0	0.000%	36	0.136%
	自動車数(エアコンディショナー)	4	0.006%	4	0.015%
合計		66,812	—	26,262	—

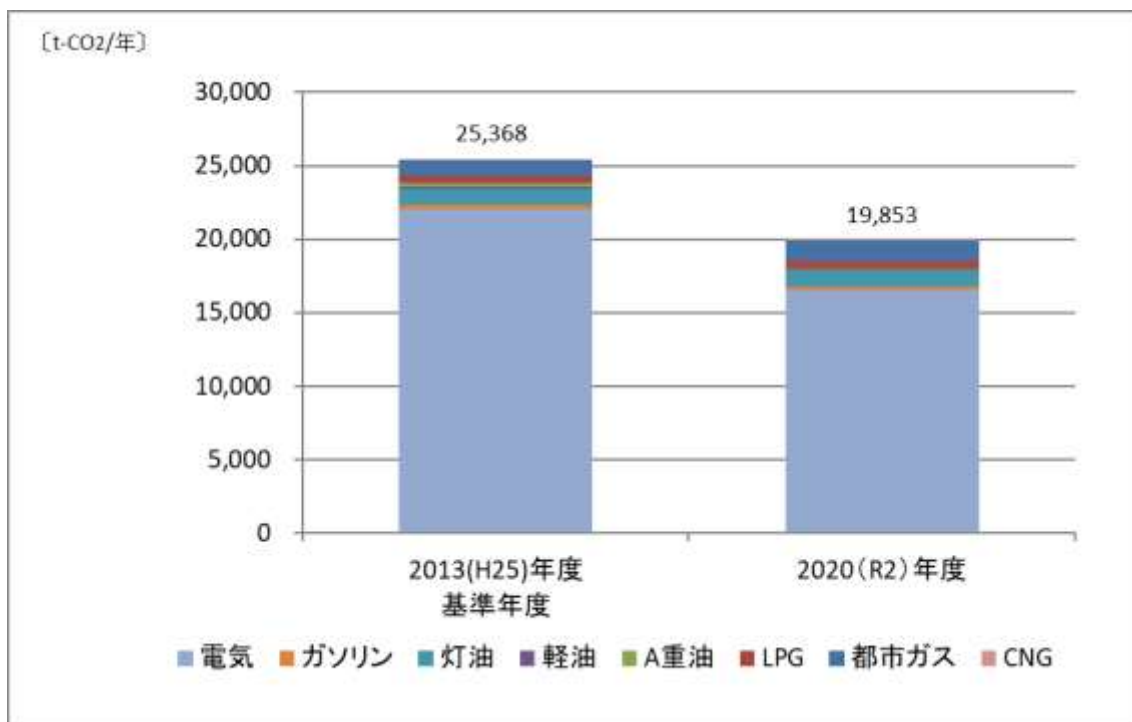
※四捨五入のため、合計値が合わない場合があります。

活動種類別排出量は、主に「産業廃棄物の焼却」が基準年度に比べ増加しています。また、「他人から供給された電気の使用」は基準年度に比べ減少し、2016(H28)年度末の環境センター焼却工場閉鎖に伴い、「一般廃棄物の焼却」による排出量0となっております。

(3) エネルギー起源二酸化炭素排出量 (単位: t-CO2/年)

エネルギー種類	2013(H25)年度 基準年度		2020(R2)年度	
	排出量	比率	排出量	比率
電気	21,990	86.7%	16,555	83.4%
ガソリン	328	1.3%	236	1.2%
灯油	1,068	4.2%	1,048	5.3%
軽油	152	0.6%	72	0.4%
A重油	289	1.1%	92	0.5%
LPG	455	1.8%	496	2.5%
都市ガス	1,074	4.2%	1,354	6.8%
CNG	12	0.05%	1	0.01%
合計(エネルギー起源 CO2 排出量)	25,368	—	19,853	—
(再掲)温室効果ガス排出量	66,812	—	26,262	—
エネルギー起源 CO2 の排出比率	38.0%	—	75.6%	—

※四捨五入のため、合計値が合わない場合があります。



エネルギー起源二酸化炭素排出量は、(2) 活動種類別排出量のうち「燃料の燃焼」及び「他人から供給された電気の使用」の合計値にあたります。

電気やガソリン等による温室効果ガスの排出量は基準年度に比べて減少しており、節電やエコドライブ等、本市の省エネルギー対策等の効果が現われていると考えられます。今後も引き続き効果拡大を図るため、様々な取組の強化を図っていきます。

■「公共施設」及び「公用車」に係る排出状況

【計画の目的と削減目標】

本市の事務・事業における温室効果ガスの排出抑制や環境負荷の低減を図るため、率先的に省エネルギーに取り組み、温室効果ガス削減を推進することとし、目標設定の対象を「公共施設の延べ床面積1㎡当たり」と「公用車1台当たり」とし、2030（R12）年度までに1%ずつ削減することを目標としています。

また、2020（R2）年度の温室効果ガス排出量原単位（公共施設/公用車）をつぎのとおり公表します。

（1）温室効果ガス排出量（公共施設/公用車）（単位：t-CO2/年）

区分	活動種類	2013(H25)年度 基準年度		2020(R2)年度		対基準年度差
		個別	分類別 合計	個別	分類別 合計	分類別
公共施設	他人から供給された電気の使用	21,990	24,992	16,555	19,682	△5,310
	ディーゼル機関における燃料の使用	3		2		
	ガス機関またはガソリン機関における燃料の使用	78		76		
	麻酔剤(笑気ガス)の使用	0		36		
公用車	燃料の燃焼	公用車以外	470	3,013		△170
		公用車		285		
	自動車の走行	10	11	300		
	自動車数(エアコンディショナー)	4	4			

※四捨五入のため、合計値が合わない場合があります。

※活動種類別排出量の一部を再掲しています。

○公共施設・公用車の温室効果ガス排出量は、2020（R2）年度は基準年度に比べ減少しています。

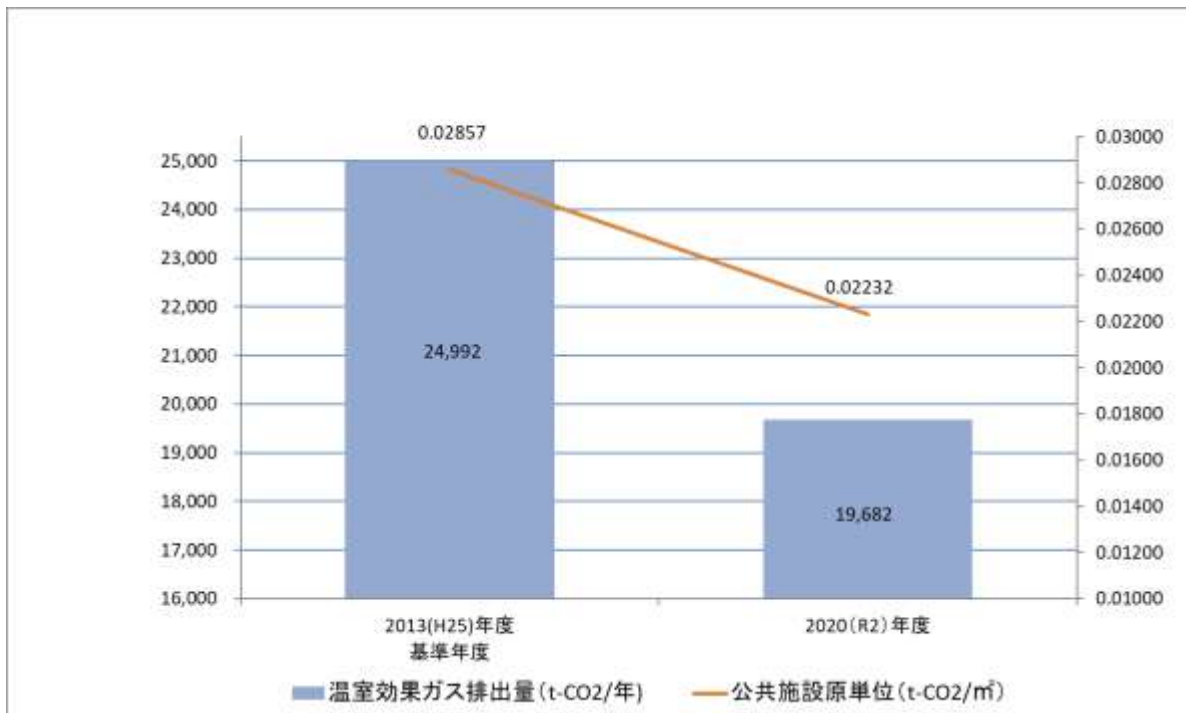
（2）温室効果ガス排出量削減原単位（単位：t-CO2/年）

区 分		2013(H25)年度 基準年度	2020(R2)年度
公共施設	温室効果ガス排出量	24,992	19,682
	延床面積(㎡)	874,762	881,779
	原単位(t-CO2/㎡)	0.02857	0.02232
	基準年度比		△21.9%
公用車	温室効果ガス排出量	470	300
	車両台数(台)	260	254
	原単位(t-CO2/台)	1.80927	1.18110
	基準年度比		△34.7%

※四捨五入のため、合計値が合わない場合があります。

※原単位とは、「温室効果ガス排出量」を「建物の延床面積」や「公用車の台数」で割ったものです。

【公共施設】



【公用車】



○公共施設・公用車とも、2020（R2）年度は基準年度に比べ減少しています。